

○紅花をひらくハコネウツギ (榎山泰一) Yasuichi MOMIYAMA: A red-flowered form of *Weigela coraeensis*.

武蔵相模の國境ひ，ところは境木といふのでせう，東海道線程ヶ谷戸塚間トンネル附近の山あひです。時節は5月の末つ方，ハコネウツギが一杯に咲き亂れてゐる，その中に，はじめから紅い花を開く「空木」があるのを私は電車の窓から見つけました。そこである日，鎌倉から上京のついでに程ヶ谷で下車してその場處に辿りついて見ると，みんなで3本の個體があつて，ちやうど花が咲き満ちてゐるところでした。そこでこれを書き留めておくことにしました。

ベニバナハコネウツギ (新稱) 花の色を除いては，葉，萼，花冠，雌雄蕊の性質などすべてハコネウツギと同様です。葉裏に散生する毛も個體により幾分多寡はありますが，ハコネウツギにもこの程度の毛やこの位の毛の變化は見られますから，毛で區別することもできないやうに思はれます。萼筒は殆んど無毛，萼片の長さは (6) — 7 — 12 mm，花冠は中途で急に判然とふくらみます。花冠の長さは約は 3 cm，腺體は 2 mm 弱，蕾は 1 cm 以下のわかい時は帯白，それ以上に成長すると紅變し，開花前には濃紅色 (長さ 2 cm の蕾もすでに濃紅色) になります。開花時に見ると花冠の外側が，薔薇色をした内側よりも色が濃く，その點はハコネウツギと少し違ふ，といふのはハコネウツギにおいては老いて紅變した花冠は内側よりも外側の方が却つて色が薄いのですが，さればといつてこの植物の形狀が示すかぎりでは他の種類の影響をうけてゐるとは思はれません。ベニウツギなど似た形は知られてゐますが，それらはいづれも雜種性のものが多く，ハコネウツギの紅花の品と明らかに認められるのは今まで記載されてゐないやうですし，野生のものとしても確かな報告はなかつたのでせう。ニシキウツギ，カリヨセウツギなどには，はじめ花が白くて後に紅變する形と，はじめから紅花の形とふたいろ知られてゐますが，それを思ふとハコネウツギに紅花の品があつても別におかしいこともないわけですね。Ridgway の Color Standards に對照すると，蕾の色は Pomegranate から Spinel Red の間です。花冠の内側は Deep Rose Pink で古くなるともつと白つぽくなります。

Weigela coraeensis Thunb. f. **rubriflora** Momiyama, f. nov.

Corolla ab initio rubra extus intensius colorata.

Prov. Musashi, Hodogaya, in fruticetis Collium sponte crescens. — 31 Mai 1952, Y. Momiyama—Typus in Herb. Fac. Sc. Univ. Tokyo.

さて話をあとに戻しますが，その日の夕方，私はかへりがけに程ヶ谷停車場附近のお寺の崖に大きな株がなほ3本ほどあるのを見出しましたが，これはどこか附近の山から移植したもののやうにも見受けられました。程ヶ谷戸塚の丘陵地帯から三浦半島の山地にかけては，ハコネウツギはきはめて多いのですが，ニシキウツギは生えてゐないこともこのついでに書き添へておきます。(資源科學研究所)